Vol. 27, No. 3

全科協ニュース

Japanese Council of Science Museums Newsletter

URL http:// www. kahaku. go. jp/JCSM/index. html

全国科学博物館協議会　東京都台東区上野公園　国立科学博物館　〒110　Tel.5814-9857・9858　Fax.5814-9898　平成9年9月15日発行（通巻第156号）

特集　人と地球環境の調和を考える
21世紀の博物館を目指して

北九州市立自然史博物館

1．設立の経緯

駅ビルの中にあるユニークな博物館です。JR八幡駅（鹿児島本線）の二階フロアーが常設展示室、三階部が事務室関係と普及室、図書室などです。このユニークさのせいか、よくタウン誌や旅行関係の雑誌に紹介されます。列車を降りると、雨の日でも濡れることなく1分で入館できるところがミソでしょう。

他に少し離れていますが、主に収蔵室や研究処理施設を置いた建物が二つあります。本館を含め、いずれも仮施設として利用しているものです。現在、新世紀に向けて新館の建設計画が進んでおり、やがて今の場所からもお別れすることになるでしょう。

昭和50年、小倉北区の郊外にあった旧陸軍および米軍が使用した山田弾薬庫の跡地脇で遊んでいた小学生が小さな魚類化石片を崖下で見つけました。小学生の兄を通じて高等学校の理科の先生の手にわたったその化石は、やがて専門家の見るところとなり、いわゆる恐竜時代の湖の地層から産した世界最古のニシン科のものであることが知られました。中生代白亜紀（1億2000万年前）という古い時代にもかかわらず、保存のよい状態のものが沢山産出することから、学界でも注目されるところとなり、北九州市によって学術調査団が組織され、2ケ年にわたって発掘調査が進められました。

この5 cmほどの大きさの魚類化石はニシン科ディプロミスタス属のもので、後にディプロミスタス・コクラエンシス（小倉の意）、ディプロミスタス・プリモティナス（原

建物全景

始的の意）という学名の2新種として報告されました。この発見が、当時はまだ自然系の博物館がなかった北九州市に是非自然史博物館を設立したいという市民の強い要望へとつながり、当館の発足（昭和56年5月）へと至ったものです。

この地層からは、化石層の調査法やクリーニング（剖出作業）技術のその後の飛躍的な進歩によって、今では体長30cmほどもある大型種の完全個体、それも複数種のものが数多く発見されるようになり、併せて恐竜化石も数ケ所から発見され、ディプロミスタスの発見当時にまして地元では太古の世界へのロマンが広がりつつあります。

このように発足のきっかけは小さな魚類化石に始まりましたが、総合的な自然史系博物館を目指して、地域に限らず広く資料の収集を行いながら、調査研究活動や交流・普及、展示活動を進めています。

2．展　示

展示は常設展、企画展、企画展の開催中のみ公開する分室での収蔵展示等を行っています。常設展はJR八幡駅ビルの二階フロアー、展示面積500m²ほどの狭いものですが、約3000点の標本を次の5テーマで展示しています。

●北九州の生い立ち
　化石や岩石、鉱物標本で郷土の地史を展示

●北九州の動植物
　現在の北九州地方に見られる多様な生物種の展示

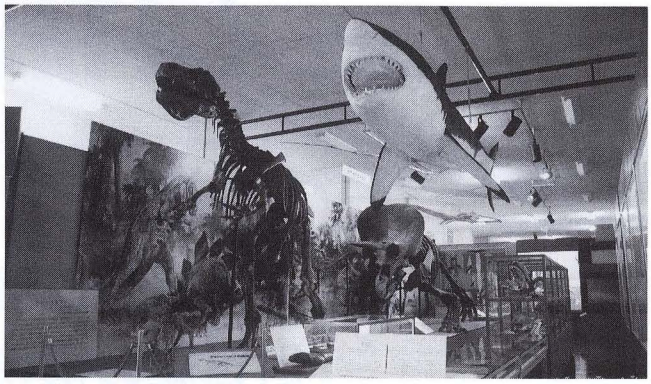
●無脊椎動物の系統と進化
　化石を主として、分類群毎に展示

●脊椎動物の系統と進化
　恐竜骨格やマンモス骨格、各種化石などを分類群毎に展示

●鉱物と鉱石
　各種の地下資源や関連の鉱物標本

仮施設ということもあって、収蔵展示とともに展示の手法や造作は学芸員の手づくり的なものです。豊富な実物資料を高密度に展示しているのも、ある意味では特徴と言えます。時折、「こりゃ1回じゃ見れん。また来んと」とつぶやきながら、観覧している人も見られます。

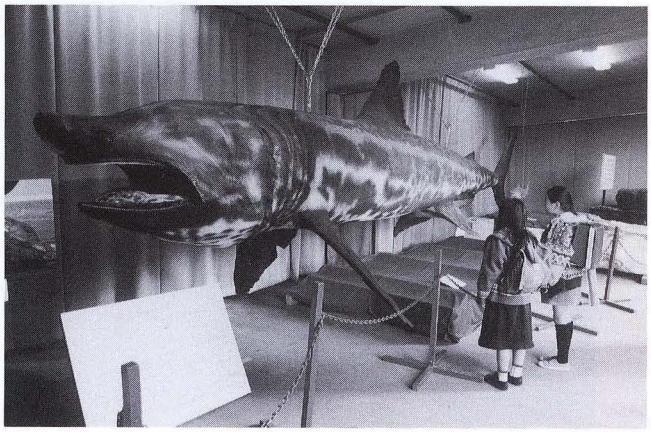
観覧者数は年度によってかなり増減が有りますが、年間3.5万～6万人、その内50数%が小・中学生および幼児等です。少し古いデータですが、平成6年度の市政モニター（公募制：市職員の家族以外）へのアンケート調査（144名）では、来館経験1回の人17.4%、2回の人11.1%、3回以上の人6.9%と、かなりの高い率を示しています。もっともこれらの方々は市政に対する何らかの意見をもった人達ということで、この数字は不特定多数の一般市民のものとするには若干難しいかもしれません。



常設展示室「恐竜コーナー」

常設展示室は天井高の問題もあって、大型の恐竜骨格等の中には設置できない標本もありますが、これらは幸い広い空間のある近くの分室（元市水道局庁舎）の収蔵展示室に置いています。収蔵展示は標本の収蔵をかねて行っているもので、全体で約7000点の標本を扱っています。

分室では一階から三階にわたり、各種の多様な標本が次々に展開される部屋の配置となっているためか、常設展のようなストーリー性はないのですが、むしろ子供たちには（学校の先生方も含めて）こちらの方が人気があり、私達には不思議というか、でも「やっぱりな」という印象も一面では受けるところです。体長9m近くもあるウバザメの剝製、長さ18m、約4000万年前の筑豊炭田時代の巨大な珪化木など、市民の皆さんの郷土自慢につながるような標本もこちらの分室で見ることができます。



収蔵展示室「ウバザメコーナー」

企画展は通常、春（ゴールデンウィークの頃）、夏（夏休み）、秋（文化の日の頃）の年３回、分室の１室で行っています。開館以来、既に40回を越えましたが、１日当りの観覧者数は平均して、春と夏がほぼ同じで310～320人、秋が約220人です。原則として展示標本はほとんど自前の収蔵物でまかなっており、企画立案に苦労しますが、企画展開催期間中の延べ観覧者数が年間総観覧者数の50％余りを占める現実を見れば、努力を続けていくことが大事かと思います。

本市と友好都市である中国の大連市の自然博物館とは、友好都市締結五周年（1985年）や当館の開館五周年（1986年）を記念して、相互の地で特別展を開催したこともあります。

３．交流・普及活動

いろいろの博物館活動を通じての市民の皆さんとの交流や普及活動は次のような事業によって進めています。

●野外観察会、バスハイク、室内講座、講演会等の各種講座の開催：平成８年度23件

●図書の閲覧と貸し出し：自然史関係の図書約５千冊を公開

●自然観察ガイドブックなどの発行

●公民館講座などへの学芸員の講師派遣：平成8年度16件

●ボランティア活動による展示解説：登録者数21名

●友の会活動への援助や指導

前記の市政モニターへのアンケート調査では、何らかの講座へ参加したことのある人は3.5％で、かなりの高率です。小・中学生を主対象とした夏休み期間中の講座が人気が高いのは例年のことです。同伴される保護者から、「最近転勤で越して来たけれども、北九州はまわりに自然が一杯で本当にいい」と、つい地元の人が忘れがちな感想をしばしば聞くことがあります。

図書の貸し出しは、年間約300名の利用がありますが、小・中学生と大人で大多数を占めます。今の社会を考えると高校生、大学生の利用が少ないのは全国的な受験最優先という好ましからざる状況、そしてまた理科離れとも言われる現象のためでしょうか。市民の利用率に関しては、博物館所在地の八幡東区が高く、隣接した八幡西区、戸畑区、若松区がそれに次いでいるのは、地便性そのものの現れでしょう。

第１表　平成８年度の各種講座の開催状況

野外観察会・バスハイク

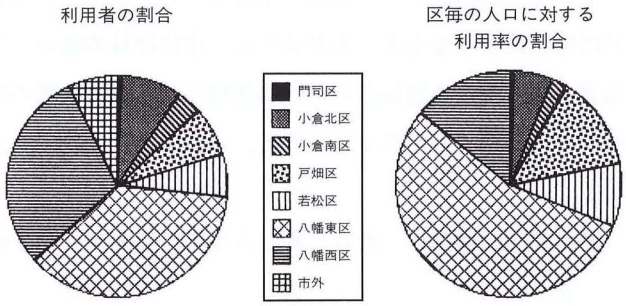
年月日	観察会名	場所	参加人員
8.4.21	春の秋吉台と秋芳洞	山口県秋芳町ほか	22人
5.12	市民探鳥会	八幡東区皿倉山	86
5.19	春の野鳥観察会	八幡東区皿倉山	50
8.18	友の会野外観察会	門司区喜多久	51
10.13	バッタのジャンプ大会	若松区頓田	26
12.22	紫川の野鳥	小倉南区紫川	30
9.3.23	早春の曽根干潟と平尾台	小倉南区曽根干潟ほか	37
3.30	解説ボランティア研修	佐賀県立博物館ほか	15

夏休み教室

年月日	観察会名	場所	参加人員
8.7.21	夏山の植物観察	八幡東区皿倉山	61人
7.25	皿倉山の昆虫観察会	八幡東区皿倉山	91
8.04	小倉南区呼野の鉱物採集	小倉南区呼野	38
8.09	化石の観察会	若松区遠見ケ鼻	36
8.11	海岸の生物	若松区遠見ケ鼻	117
8.25	植物の名前調べ	本館普及室	43

室内講座・講演会

年月日	講座名	参加人員
8.4.21	自然史映画会	16人
5.26	中国と北九州の魚類化石	12
6.16	昆虫標本の作り方	46
6.23	植物の観察・標本の作り方	30
7.28	中国中生代の地層と恐竜	約150
7.28	友の会研究発表会（7件）	約 80
8.21	アンモナイトレプリカ作成コンテスト	41
11.23	動物折り紙教室	20
9.2.23	化石の型どり	28



第１図　図書の貸出の状況

一般向けの普及・研究用の出版物としては次のようなものを刊行しています。

●総合案内

地球と生きものの歴史（第２版）、1993.

●北九州自然ガイドブック
　生物編、1990.
　地学編(第2版)、1996.
●スライド集－北九州の地層と化石－
　地層・岩石編、1989.
　化石編、1991.
●その他
　福岡県産蛾類目録、1984.
　恐竜の世界、1986.(友の会発行)
　山田緑地の自然、1992.

ボランティア(公募、研修制)による展示解説は平成8年度から始めましたが、日・祝・休日(企画展開催中は土曜も)の午後に1～3名が参加され、好評です。ボランティアの方々の要望には、解説の際のきっかけとするための標本にまつわる面白い話とか、あるいは最新の話題について学芸員から聞きたいといったことなどがあります。

研修中のボランティア解説員

展示や企画に関して、前記の市政モニターからの自由意見には次のようなものがありました。中には耳の痛いものもありますが、事務局からの投稿依頼に「他館の活動の参考になるもの」とありましたので、そのままを記してみます。

●自然史博物館が、身近に親しみやすくなるような企画を
●皆が、気軽に行けて参加できるようなコーナー・行事を企画してほしい
●もっとイベントの回数を増やしてはどうか
●子供向けのイベントの企画・広報をして欲しい
●遊び心があり、大人から子供まで楽しめるような展示が欲しい
●小学校2年生の子供と行ったが、子供には分かりにくかったようだ。子供も楽しめるような展示を工夫して欲しい
●建物が狭いためか、ゴチャゴチャと置いていて見にくかった
●標本ケースの中にほこりがたまったり、説明文が見にくいものがある。日ごろから、ちょっと手を加えて欲しい
●外国の資料・標本を買い付けて欲しい

批評的に表れがちなこの種の自由意見は、時に概念的で、実践面と中々かみ合わないところ(受け手としては結構実施しているつもりなので)があります。事例的な回答が得られるような、アンケートの取り方を工夫する必要もあるのではないかと思います。

定期的な広報活動としては、各種講座の開催案内等を市政だより(月2回発行)に載せ、テレフォンサービスを行なっています。また、市内の小・中学校(学級数あて)や社会教育関係の施設などへ毎月博物館ニュース(B4版1頁)を送ります。パソコンによるホームページの利用は来春をめどに積極的な取り組みに入る予定です。

4. 調査研究・収集保存活動

現在の常勤職員中の有学芸員資格者は9名(内、嘱託1名)で、地学系4名、生物系5名です[注1]。それぞれの専門分野に応じてフィールドワークや収蔵資料に関する調査研究を行うとともに、資料の収集活動を進め、また最近とみに多くなってきた自然環境調査など、外部からの共同研究の依頼にも可能なかぎり応じています。これらの成果は当館の研究報告書や各種の学会誌等に発表されています。市民や大学等の専門家から、収蔵標本や文献資料に関する研究上の問い合わせも多く寄せられます。

研究報告書は年刊で、昭和54年以来既に16号を数え、友の会誌とともに国内外合わせて約700ケ所との文献交換を進め、二次資料としての各種文献類の収蔵数は約7万点に達しています。これらの文献類の主体は、当館の設立当初から暖かい支援を下さっている方々からの寄贈によるものです。大学を退官された幾人かの先生方から寄贈を受けた膨大な量の研究論文の別刷類や学術誌類は、約33万点に及ぶ収蔵標本とともに真の財産と言えるものです。残念ながら、これらの文献類のデータベースはごく一部を除いてはほと

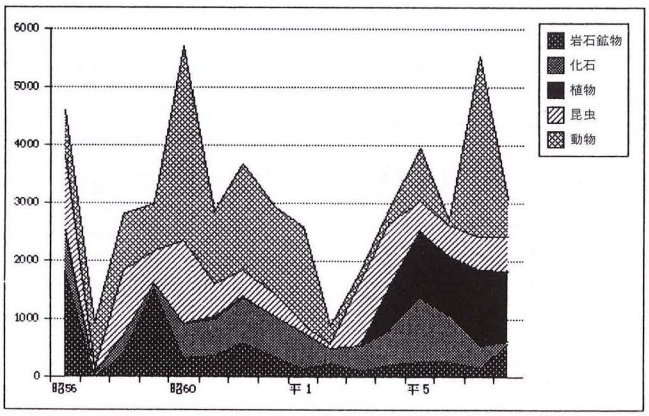
んどできておらず、これからの課題です。

収蔵標本の登録は１件ごとに資料受け入れ票を作成し、パソコンによるデータベース化（市販のソフトを使用）を行っています。実際の検索にあたっては、７年前にパソコンを導入するまではホールソートカードを用いていましたが、やはり数が多くなるとそう実用的とは言えなかったようです。

第２表　平成８年度の資料登録状況

分　類	７年度まで	８年度	計	８年度の内訳		
				寄贈他	購入	採集
	点	点	点	点	点	点
化　石	9,514	93	9,607	26	43	24
動　物	19,478	860	20,338	662	3	195
昆　虫	12,055	600	12,655	585	0	15
植　物	4,456	1,344	5,800	178	932	234
岩石鉱物	7,362	592	7,954	568	0	24
そ の 他	95	5	100	4	0	1
計	52,960	3,494	56,454	2,023	978	493

これまでに56,000点余りが登録されていますが、今のところは分類群毎に別々のファイルとして作成しており、一度に全体を検索するといった作業はできません。しかし、それで特に不便を囲ったことはなく、むしろ日々の新規データの追加などの作業には逆に使いやすいという利点があります。



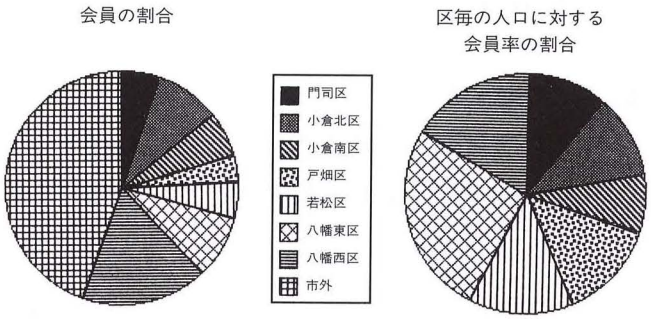
第２図　年間資料登録数の推移

標本収蔵庫は分室ともう一つの元小学校校舎を利用した施設の２ケ所に分散してあります。延べ1700m²余り（収蔵展示室以外）を使っていますが、ほとんど満杯の状況のうえ、施設が分散しているという不便さはどうしても能率や保管面で支障をきたしています。

５．友の会活動

友の会には、実は当館の発足よりも先にできたという歴史があります。最初に紹介したようにディプロミスタスの発見によって、「北九州市に自然史博物館を」という市民の要望が大きくなり、昭和53年４月に教育委員会に自然史博物館開設準備室が置かれると、続いて翌年1月には早々に北九州自然史友の会が有志の方々により設立されました。そのロゴマークは会員の手によって図案化されたディプロミスタスです。

発足当初の会員数は650名ほどでしたが着実に会員数を伸ばし、まもなく1000名に達する見込みで、その活動も一段と活発になろうとしています。会員は約3/4が大学生以上の大人で、残りの主体が小・中学生です。図書の貸し出し状況と同様、博物館のある八幡東区の会員率が高く、隣接区がそれに続いています。市内居住の会員は約55％で、約40％は市外近郊の人です。



第３図　友の会の会員状況

皆さんの興味は地学系から生物系まで幅広い分野にわたり、約1/3もの方がもう一歩踏み込んだ活動を目指してそれぞれの分野で研究部会を組織し、活動を行っています。現在までに、地質・鉱物、化石、植物、水生動物、昆虫、両生・爬虫類、鳥類の７研究部会が組織され、情報交換会や研究発表会、観察・採集会、実習講座などが折々に開かれています。

また「わたしたちの自然史」という季刊の機関誌が発行され、既に61号を数えます。会員の皆さんの日頃の活動状況や、研究報告、旅行記、採集記録、コレクション紹介、イラストなど、盛り沢山の楽しい会誌です。

博物館の売店では、友の会によるちょっとしたお土産グッズや図書、絵葉書、採集用具なども併せて販売されています。会員には割引きがあります。また、博物館の観覧料減免の特典もあります。

地質鉱物研究部会

第28回　平成９年１月19日(日)　参加者　17名
自然史博物館分室で岩石薄片の作成実習および地質図の読み方等を勉強した。

第29回　平成９年２月11日(火)　参加者　７名
前回に続いて自然史博物館分室で岩石薄片の作成実習を行った。

第30回　平成９年３月２日(日)　参加者　33名
マイクロバスを借り上げ、佐賀県伊万里市腰岳の黒曜石産地、長崎県波佐見町三股の球果流紋岩、オパール、陶石等の産地への巡検を行った。

第４図　友の会の部会活動の一例
(わたしたちの自然史、No.60より)

各種講座などでの友の会員によるボランティア的な協力や、標本等の寄贈などには、筆舌に尽くし難いほどのものがあり、友の会の活動は博物館のそれと車の両輪のようなものとはよく言われますが、実際それに余りある協力を得ていると言えます。

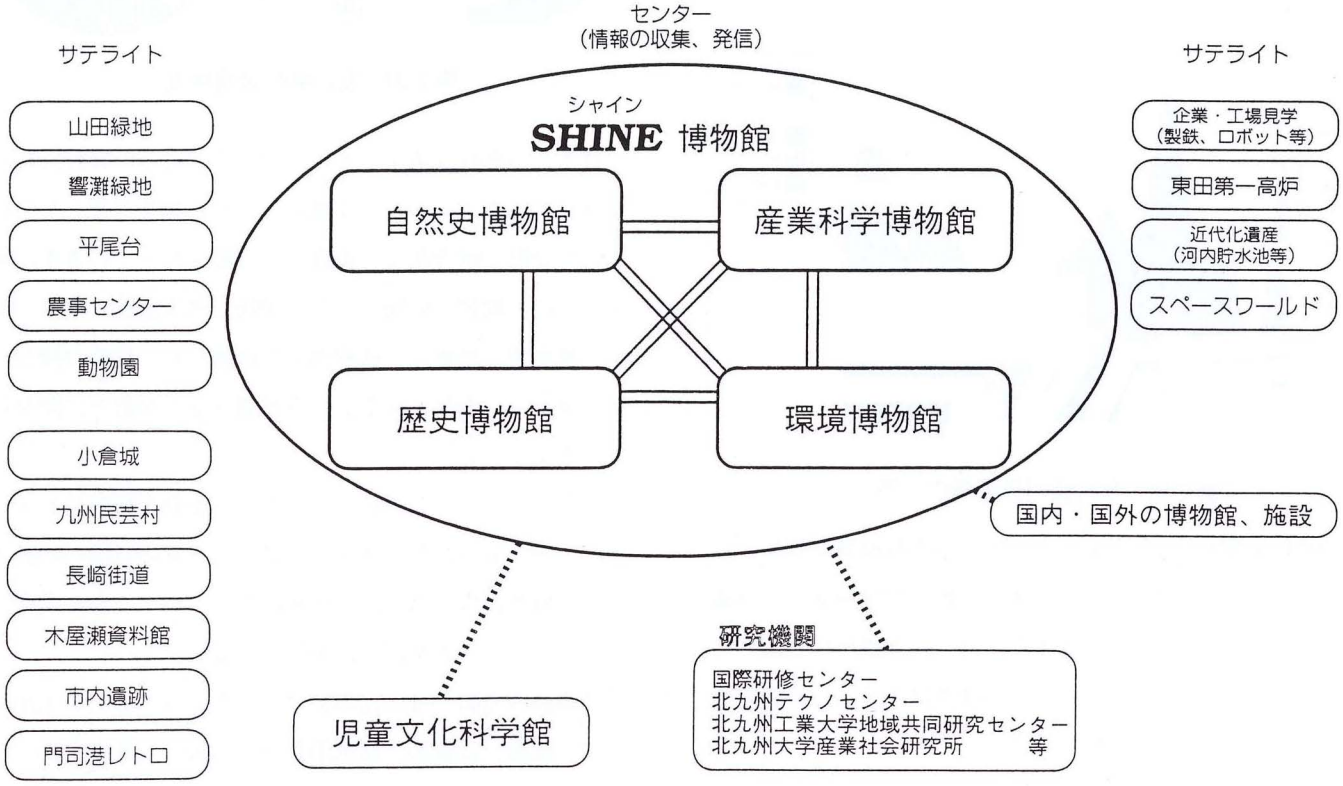
６．新館建設計画

昭和56年の開館以来仮施設のまま、これまで紹介したような活動を行いつつ、新館の建設に関しても逐次準備を進めてきました。

当初はディプロミスタスの発見地である山田弾薬庫跡地に新館を、という構想もありましたが、21世紀へ向けての北九州市の社会的、産業的基盤構造の再構築を目指した都市の再開発が計画される中で、新しい都市型の博物館として建設構想を考えるべきだという考えがクローズアップされてきました（北九州市立自然史博物館新館基本構想；平成２年)。そして、平成8年には産業、文化、生活が融合した「新創造拠点都市」を目指した八幡東区東田地区における総合開発計画の中で、博物館群を集積したミューズパーク構想が提言されました（東田地区文化施設整備構想検討委員会)。

この構想は、地区内にある明治34年（1901年）の官営製鉄所による第一高炉の跡地（昭和47年まで使用された第10次高炉が今も残り、宇宙テーマパーク「スペースワールド」の近隣地）を中心として、将来的に産業科学博物館や歴史博物館、環境博物館を整備しながら、その第一段階として自然史博物館を建設しようとするものです。21世紀の人と地球環境の調和を考える、「環境」を共通テーマとした「SHINE 博物館構想[注2]」と呼ばれます。

現在、この構想に基づいて設計へと進みつつあって、子



第５図　東田地区文化施設のネットワーク構想

供から大人まで楽しく学べる、開かれた参加交流型の施設の実現を目指して努力しています。遠からず、新世紀早々には皆さんにお目にかかれることを、待ち望んでいるところです。

注1　他に事務系職員は5名。
注2　Science, Human History, Industry, Natural History, Environment の各頭文字をとったもの。

COLORATA
Venture Into The Past　The Living Earth　Communication For The Future
ミュージアムグッズの企画・デザイン
カロラータ㈱ 〒111 東京都台東区浅草橋4−6−8 西澤ビル3F
TEL03−3865−8110　FAX03−3864−4049

感動環境
創造会社です。
NOMURA
株式会社 乃村工藝社
本社／東京都港区芝浦4-6-4 電話03-3455-1171㈹ 〒108
ホームページ http://www.nomurakougei.co.jp
ディスプレイおよび建築の調査・コンサルティング・
企画・設計・デザイン・プロデュース・演出・制作施工

ー全科協情報ー

共同企画展等調査研究委員会の設置

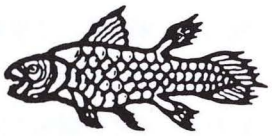
昨年度に引き続き標記委員会が設置されました。この委員会は、全科協加盟館が共同企画展や巡回展などの展示活動をお互いに連携・協力して実施するための環境や方策について調査研究を行います。

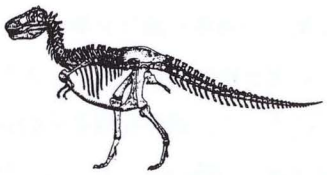
今年度は加盟館等が活用できる具体的な巡回展の制作に向けた方策研究を実施することとしています。

第1回委員会は平成9年9月30日(火)に国立科学博物館で開催されました。議事に先立ち、各委員の紹介が行われ、本委員会の座長は昨年度と同じく飯田委員（国立科学博物館）が選出されました。

委員名簿

飯田　和郎	国立科学博物館（座長）
伊藤　由幸	札幌市青少年科学館
大堀　哲	静岡大学
加藤　賢一	大阪市立科学館
斎藤　温次郎	斎藤報恩会自然史博物館
斎藤　靖二	国立科学博物館
佐々木勝浩	国立科学博物館
三輪　克	名古屋工業大学
樋口　弘道	栃木県立博物館
吉武　弘喜	国立科学博物館

美術
はく製
〈各 種 生 物〉
剥製・骨格標本・レプリカ
加工／販売／リース

有限会社 東洋近代美術研究所
製作所 〒272 千葉県市川市本北方2-18-1 直通☎047-337-5678
☎047-337-5883
FAX 047-338-1978
本　社 〒272 千葉県市川市国分5-3-25 ☎047-374-1564

※世界の化石・
鉱物・恐竜・化石
人類・動物骨格
標本及び模型の
輸入専門業者

ティラノサウルス・REX
株式会社 ゼネラル サイエンス
コーポレーション
〒107 東京都港区赤坂3−11−14　赤坂ベルゴビル802
TEL 03 (3583) 0731代表　FAX 03 (3584) 6247

海外ニュース

安井 亮（ハイフォン）

ライデン国立自然史博物館が移転・リノベート

1830年に開館したライデン国立自然史博物館は、このほど1997年10月にライデン市内のダーウィン街に移転し、装いも新たにし、また館名も「ナチュラリス」（Naturalis）に変えてリノベートした。新住所：Naturalis Darwinweg 2, 2333 CR Leiden, The Netherlands.
Tel.（+31）71 568 7600 Fax.（+31）71 568 7666

クリーブランド健康博物館、1999年に改装オープン

アメリカの代表的な健康博物館であるクリーブランド健康博物館（1936年設立）は、老朽化した建物を全面改装し、1999年に再オープンする予定だ。現在も改装の準備作業が進行しているが、1998年夏から全館休館する。

英リーズに、サックレイ医学博物館がオープン

1997年３月に、ヨーロッパで医学博物館として最も大きいサックレイ医学博物館が、リーズ市にオープンした。同館は、イギリスの世界的な医療器具メーカーのサックレイ社の創業者一族が中心によって設立されたが、1985年から収集されたきた収蔵品は、約23,000点を数え、ローマ時代から現代に至るまでのあらゆる種類の医療器具が集められてきている。

常設展示では、「どうして1840年から30年以降に、人々の長生き記録がそれ以前より飛躍的に伸びたか」がメイン・テーマになっており、そのため常設展示では膨大な数の医療器具をただ陳列するのではなく、過去から現代に至るまでの医学の発展とそれらが人々の生活をどのように変えていったかをストーリー的に三つのコーナーに分けて紹介している。

来館者が最初にみるコーナーは、1840年代のリーズ市のスラム街の一角を再現したものだ。来館者は、喧騒といやな臭いが渦巻く通りを歩きながら、当時のスラムの不衛生な状況を疑似体験できる。またここでは、通りに面した薬局に入って、適当な病名を店員に扮した人形に告げると、処方箋（当時の）にもとづいた薬が提供される。

外科の歴史コーナーでは、過去150年の手術の変遷を紹介している。ここでは1840年代の手術室があり、足を切断する前の患者と手術の執刀医との間のやりとりがロボット劇として再現されている。またディスカバリー・ギャラリーのコーナーでは、からだがどのように働き、またどのように健康を維持できるかが紹介されている。

総工費の500万ポンドのうち、200万ポンドは、創業者一族が設立したサックレイ医学研究財団から出資され（運営も同財団が行う）、300万ポンドは英政府が運営している歴史遺産宝くじ基金から拠出されている。

同館には、また1500平米のショップも開館と同時にオープンした。ここでは、19世紀の薬ビンを模した香水、医者の診療鞄、19世紀の医者がカルテを書くのに使ったインキ、人間の目玉を模したガラス製の文鎮、救急セット、人体の内臓を模したグミ菓子、血吹いヒルを模したグミ菓子、解剖模型セット、解剖実験セットなどのユニークな商品が売られている。商品の多くは自主開発したものだ。

シカゴ科学産業博物館、炭坑展示ホールを改装オープン

シカゴ科学産業博物館の炭坑展示ホール（Coal Mine）は、もともと石炭の採掘現場を紹介するために1933年に完成したが、このほど100万ドルをかけて大々的な展示更新を行った。整備費の殆どは石炭採掘機械を製造するマーモン・グループによって寄付された。

長いこと更新されなかった今までの展示では、1933年当時の採掘技術と採掘に携わる労働者の活躍にスポットを当てていたのに対し、新しく生まれ変わった展示は、地質学をベースにおいて、植物がどのように石炭に変わるかや、採掘現場の監視と安全の確保に重点を置いている。特に、採掘現場の監視と安全に関しては、最新の技術をつかったコントロール・ルームが本物に近い設備で設けられている。最新の採掘技術を紹介した坑道では、臨場感を最大限に発揮させるために、展示照明や特殊効果が大々的に用いられている。

フロリダ大学自然史博物館、馬の進化の展示をオープン

フロリダ大学自然史博物館では、馬の進化に関する常設展示を二期に渡って整備している。第一期がオープンした1997年11月１日に先だって、同館はモニタリング調査を含めたオンライン展示を同館のホームページに開設した。このオンライン展示では、化石を使った馬の進化が紹介されているが、モニタリング調査では、アクセスする利用者から、想定される実際の常設展示の観覧者の特性（年令・興味・学歴など）を抽出し、また利用者の意見も常設展示に反映させるユニークな試みである。

ベルリン宇宙科学館、音に関する特別展を開催

ベルリンの宇宙科学館（Neues Universum Berlin）において、音に関する特別展が1997年３月４日から４月27日まで開催された。同展のために、音を扱ったインタラクティブ展示装置が40台設計された。展示面積：1,000平米。同展は、ベルリンでの開催の後は、ウィーンのズーム子ども博物館に移り、その他にヨーロッパのいくつかの都市でも開催される予定だ。

火星探査機「パースファインダー」とアメリカの科学館

火星に軟着陸し、火星の地上で徘徊した探査機「パースファインダー」から送られてきた実況中継の映像（1997年７月４日）は、研究者や天文オタクならずとも、世界中の多くの人々に感動をもたらした。アメリカの多くの科学館や科学博物館では、実況中継の映像を、館内で紹介したり、関連のイベントを行ったところが多かった。

ダーハム生命・科学の博物館（ノースカロライナ州ダーハム）では、パースファインダーの火星到着に先だって、現役のNASA宇宙飛行士による講演を行った。同館では、参加した子どもたちに、人類の誰でも火星に行けるようになったら、何をしたいかを絵に描いてもらったりした。描かれた絵は、タイムカプセルに入れられ、NASAが人類が火星に降り立つであろうと考えている2007年に開封される予定だ。

バージニア航空宇宙科学館では、パースファインダーが火星に軟着陸した翌日に常設展「火星の姿」をオープンした。同館では、パースファインダーが火星に軟着陸した日から数ヵ月の間、いろんな関連イベントを含んだ火星フェスティバルを開催している。

ファーンバンク科学館（アトランタ）では、子どもを対象としたイベント「火星での一日」を開催した。ケネディー宇宙船打ち上げ基地のビジターセンターでは、20年前に火星に到着した無人衛星「バイキング号」を記念してつくられた火星探検の常設展示を、この折に更新し、パースファインダーと地上探査車両に関する情報等を紹介している。

ボストン科学博物館では、「火星からのメッセンジャー」と題するプログラムをプラネタリウムで上映している。同プログラムでは、南極大陸で発見された火星の隕石を紹介し、火星に生き物が存在する可能性を示唆した。同館では、1997年７月27日から８月１日までの短期間に、この隕石の実物を紹介した特別展を開催した。

サウス・フロリダ科学館では、「ミクロの不思議」と題した企画展で設けたインタラクティブ展示装置で、同館自身が所蔵する火星の隕石のスライス断片をテレビ画面で拡大して見れる。

バージニア科学博物館では、パースファインダーから送られてくる最新の映像をプラネタリウムで上映した。

イマジネーション・ステーション（ノースカロライナ州ウィルソン）では、火星への宇宙旅行が疑似体験できる常設展示を設けた。同展では、子ども達はNASAの地上管制施設と宇宙船に分かれて、ビデオ会議の技術によって宇宙交信の擬似体験ができる。また宇宙飛行士用と全く同じように作られたフィットネス・ジムで本物のトレーニング機器を体験できる。さらに、火星の地上を模したミニチュア模型で、無線コントロールで、地上探査車両を動かすことができる。その他に、パースファインダーからの映像を実況中継した館は、次の通りである。

アメリカ自然史博物館（ニューヨーク）、COSIオハイオ科学産業博物館（オハイオ州コロンブス）、デンバー自然史博物館、ヒューストン自然科学博物館、ローレンス科学館（バークレー）、リバティー科学館（ニュージャージー州ジャージー・シティー）、メリーランド科学館（ボルチモア）、オムニプレックス（オクラホマ州オクラホマ・シティー）、リューベン・H・フリート科学館、サンディエゴ科学館、ダーバン科学館（南アフリカ・ダーバン）。

1998年度のコロラド大学ミュージアム・マネジメント講座

米国のミュージアム・マネジメントの権威であるビクター・ダニロフ教授（前シカゴ科学産業博物館館長）が、毎年初夏に主宰しているミュージアム・マネジメント講座の開催スケジュールが発表された。今年は「より効率的なミュージアム・マネジメント」がテーマに設定され、この分野では代表的な7名の博物館幹部が講師として登壇する。開催時期：1998年６月28日～７月２日。開催場所：コロラド大学ボルダー校（コロラド州ボルダー）。詳細は直接ダニロフ教授まで。Dr V.Danilov Museum Management Program 250 Bristlecone Way, Boulder, CO 80304, U.S.A.Tel.（+1）303-473-9150 Fax.（+1）303-443-8486

＊ハイフォン：Fax.0427-36-5916

E-mail.QFH03327@niftyserve.or.jp

海外科学系博物館視察研修報告（その４）

La Villete（科学産業都市 ラ・ヴィレット）

“科学と音楽の融合”を目指してつくられた科学産業都市「ラ・ヴィレット」はパリの中心部から北に車で20分の場所にある。施設の南側には、音楽学校、コンサートホール、ミュージシャン達の宿泊施設等が点在し、北側には「エクスプローラ」と呼ばれる科学博物館を中心として、「ジオード」（オムニマックス劇場）、「シナックス」（映像に合わせ座席が動くシュミレータ）などがある。

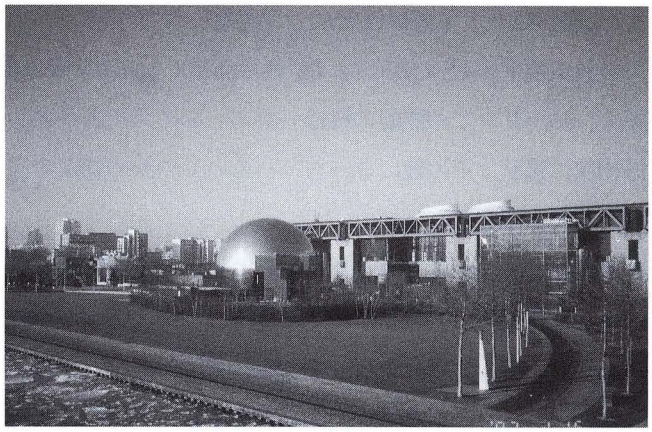
音響、映像などを用いた新しい環境で訴える未来志向型の「ラ・ヴィレット」は、世界最大級の規模と革新さを誇る科学技術の普及施設である。

この施設は、ミッテラン大統領のもとで、1983年に国家プロジェクトとして計画された、パリの都市と建造物の改造計画（グラン・プロジェ）によるものである。その計画の１つとして、旧屠殺場のあった場所をパリ市最大の公園にして、1986年にオープンした。

設立の趣旨は、①「国民に科学の興味を引き出すこと。」②「農業国あるいは文化・芸術国フランスとしてのイメージだけでなく、科学産業先進国としてのイメージをつくること」であり、日本同様フランスでもここ数年来、深刻な問題となっている若者の理科離れをくいとめることを目的として550億円の建設費を投入してつくられた。

総面積は５万４千平方メートル、うち３万平方メートルが科学技術に関する展示である。その他に特別展示、国際会議場、メディア総合図書館、子供専用の展示教育施設、科学ニュースセンター、国立科学技術史研究センター、プラネタリウム、大型映像館、職業教育情報センターなどから構成され約1000人の職員によって運営されている。ラ・ヴィレットの1年間の入場者数はルーブル美術館の500万人を上回る530万人で、そういった点ではパリの新名所となっているといえよう。パリの中で一番奥にありまた、パリの中では１番大きく歴史のある公園でもある。

運営年間予算は約145億円である。そのうち大部分は中央政府からによるものであるが、大型映像館「ジオード」や動くシュミレータ映画館などの入場料の収入が占める割合も多い。博物館の評価は入場者数だけで決められるものではないが、入場者数から見ると、この種の施設としては世界的にも成功を収めていると評価できよう。



ラ・ヴィレットの全景写真

1986年のオープン以来、1996年に入場者は1,000万人に達している。

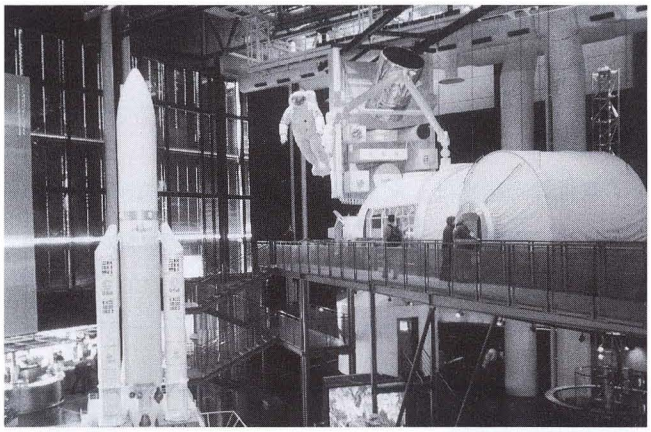
ナポレオン１世は、この時代、運河が非常に重要な交通網であると考えたため、現在、ラ・ヴィレットのある場所に運河を造るよう命じた。19世紀の半ばナポレオン３世の治世には、交通機関も整っていたため、この場所に屠殺場が作られ「血の会場」と呼ばれ、1950年代はシカゴの屠殺場と競い合っていた。そして、近代的な屠殺場にするために建物を壊し、当時のお金で100万フランをかけて造り直したが、１度も使うことなく1974年に閉鎖されてしまった。その理由は世の中に冷蔵庫が普及し始め、生産地で肉の処理をし冷凍して運んだほうが、よりコストが低くなったためである。

その後、色々な人に意見を聞きこの場所の用途を考えることになった。そして、科学博物館を作るという意見が採用され、建設されることになった。当時の大統領は賛成したが１つの条件を出してきた。それはお金を節約して造ること、つまり従来の建物を使用して博物館を造ることである。今も当時の建物の一部が残っており、一部は事務局や劇場として使用され、他の建物も色々な用途に使われている。

その他、当時の館長がアメリカに行き、新しい映像システムを見てここにも作ることを計画し、その技術を取り入れた映画館を作った。ロケットと同じ、ジオードという材料で直径36m、1000m²の円球型映画館を建て、他にもシミュレータ施設も造った。ここまではジスカール・ディスタ

ン大統領が作らせた施設である。その7年後にはミッテラン大統領になり、開発公社を作り南側の開発に着手し、約55ヘクタールを公園にすることになった。公園内の道路は四方八方に広がり、どこへでもすぐに行けるように整備されている。

この公園は政府のプロジェクトではあるが、民間企業も財政的に参加をしている。たとえば先ほどの映画館であるが51%が国費、49%が民間企業の援助を受けている半官半民の施設である。科学博物館も同様に民間企業の援助を受けている。しかし、民間企業の導入によりできるだけ収入を上げなければならなくなっているにもかかわらず、入場者は入場料を含んでも場内では一人平均約100フラン（約2000円）という金額しか使わない。



館内の展示

1978年にレヴューパリ大学教授がレポートの中で「フランスに一番必要なことは、農業国というイメージではなく最先端科学技術国であることを国民、特に大人に示さなければならないということである」と主張した。

当時は国内で博物館は2,000館（国立は34館）あったが、この種の博物館はなかった。そのため、1981年にミッテラン大統領は国際博覧会の開催をあきらめて、常設展示のある博物館を建設することを決めた。

常設展示、特別展示、職業情報センター、国際会議場、子どもの教育を中心にした施設などの総合施設である。科学博物館を完全に見ると、順路は3,000mの距離がある。また、昨年組織を8部局から4部局にリストラした。

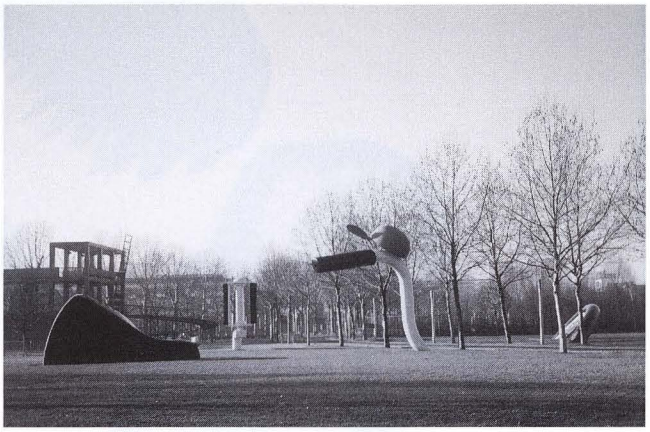
特別展示の企画、準備は3年前ぐらいから着手できるようになっている。そして、国の文化政策の一環として、ベトナム、アフリカなどの発展途上国や、日本などにもビジネスレベルで特別展示、移動展示等を輸出し、日本で10万人の子どもが体験している。

年間予算は6億4,500万フランで、その内5億1,600万フランが国からの補助であるが年々減少している。収入は1億2,600万フランで予算の20%を占めており、内容は入場料、書籍販売等で、その中では国際会議場の施設使用料が一番の収入源である。

予算を単なる施設の運営費と見るか、あるいは国民への教育投資とみるかによって、施設のあり方が左右される。前者の場合は近視眼的であり、入場者が減少したからという理由で予算をカットするケースが多い。後者は「国民の教育は百年の計をもってことにあたらなければならない」といった考え方によるものである。

フランスの学校の教員を1～2年の期間で45名をラ・ヴィレットに内地留学（出向）させて、どのように学校教育と展示を結びつけることができるかを最後にレポートとして提出してもらい参考にしている。その他にクラスラ・レビットというのがあり、13歳ぐらいの子どもに1週間ほど宿泊してもらい、自由に施設を利用してもらうほか、学校の教員にも利用してもらっている。

展示の問題であるが、数年前の展示と現在の展示とはどうしても差ができてしまう。たとえばエイズ問題などは数年前には数少なかったが、現在では非常に大きな社会問題にもなっているので、医学関係の展示場所を拡げたいと考えても、全体をブロックに区切り各ブロックごとのプロデューサーが違うため、面積の拡大についてもブロックごとの調整が必要となっている。そのため、今後は大きなブロック、大プロデューサー制にしてそのような問題を解決しようとしている。



公園のようす

調査・企画・デザイン・設計・製作・施工・
監理・運営およびコンサルティング・プロデュース

より良い「社会交流空間づくり」にむけて…。

株式会社丹青社

〒110 東京都台東区上野5-2-2　TEL 03-3836-7221(代表)
札幌・仙台・新潟・名古屋・大阪・鳥取・福岡
URL http://www.tanseisha.co.jp

INTERIOR/EXTERIOR/DESIGN/EQUIPMENT
ONY KOBO CO.,LTD.
東京都千代田区神田神保町2-40-5 東久ビル
TEL(03)3221-1102(代)　FAX(03)3221-1185
動物園／水族館／博物館
企画・設計・施工

Practical Specimens for Study of Earth Science
地学標本(化石・鉱物・岩石)
古生物関係模型(レプリカ)
岩石薄片製作(材料提供による薄片製作も受け賜ります。)
大英博物館/恐竜復元模型
縮尺：実物の40分の1　精密教育用モデル、大英博物館製作による刻印入
TEL 03-3350-6725
上京時にはお気軽にお立寄り下さい。
〔特に化石関係は諸外国より良質標本を多数直輸入し、力を入れておりますので教材に博物館展示等にせいぜいご利用くださいませ〕
Fossils, Minerals & Rocks
株式会社東京サイエンス
本　社 〒150 渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスビル
TEL.03-3350-6725 FAX.03-3350-6745
ショールーム 紀伊國屋書店新宿本店1F TEL.03-3354-9433
TOKYO SCIENCE CO., LTD.

「全科協ニュース」を皆様の情報交換の場としてご活用ください。資料や情報の提供、標本などの借用希望、事業案内、ご意見、ご提案など皆様の原稿をお待ちしております。

編集後記

9月号の編集は、北九州市立自然史博物館が担当しました。次回は、かかみがはら航空宇宙博物館の担当です。ご期待ください。